

目的・背景

近年、救急需要の増加により、救急医療体制の負担が増大している。従来の救急搬送においては、傷病者情報の記録や医療機関への伝達を紙媒体や口頭に依存しており、情報の正確性や伝達効率の面で課題がありました。

こうした背景や課題を踏まえ、救急現場で取得した傷病者情報をデジタル化し、医療機関とリアルタイムに共有する仕組みを導入することで、医師による的確な指示・助言を可能とするとともに、救急搬送の迅速化および業務の効率化を図ることを目的としています。

事業概要

東広島市消防局では、搬送先の選定や傷病者情報伝達に時間を要していた課題を解決するため、傷病者情報を指令室・救急隊・医療機関間でデジタル共有できる「東広島市救急業務システム（HECRS）」を導入しています。

本システムは、従来紙媒体で行っていた救急活動記録を電子化し、指令情報や現場で入力した傷病者情報、バイタルサイン等を医療機関とリアルタイムで共有できる仕組みです。患者監視装置と連携することでバイタルデータや画像情報を送信できるほか、搬送困難時の複数医療機関への同時受入要請機能を備えており、現場・病院滞在時間の短縮、隊員の負担軽減、情報共有の迅速化を図るものです。

今後の展望

今後は本システムの定着と運用改善を進め、救急活動における情報共有の円滑化と業務全体の質の更なる向上を図ることで、将来的な救急需要の増加にも対応できる体制づくりを引き続き目指していきます。

| | |
|------|-----------------------------|
| 実施主体 | 東広島市消防局 |
| 実施場所 | 東広島市 |
| 活用技術 | データプラットフォーム |
| 支援事業 | 令和4年度 「デジタル田園都市国家構想交付金」等 |

